

## 平成29年度地域学交流集会「人を育む地域の学び」 実施報告

日時：平成29年11月5日（日）13：00～16：00

場所：遊学館 第一研修室

実践報告：山形市立商業高等学校産業調査部 西川町歴史文化学習会

コーディネーター：廣瀬隆人氏（一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事）

### オリエンテーション 地域学とは？「山形学」とは？

地域学とは地域のことを学ぶ営みのことです。「地元学」や「郷土学習」などと呼ばれることもあります。山形県生涯学習センターでは、平成2年から「山形学」に取り組んできました。「山形学」とは、県民自らが山形を調べて、山形を知って、山形で生きている自分を感じて、そして山形の未来を創っていくことです。地域学交流集会では「山形学」の担い手の姿を見ていただくようにしています。

今回は、行政とうまく連携しながら西川町の歴史を調べ学習している西川町歴史文化学習会、そして山形市立商業高等学校産業調査部の生徒19名に来ていただいています。実は最近、山形県内の高校を中心に、総合学習や部活動、行事等の中で地元について調べて発表する流れがあります。山形の未来を担う高校生が、丁寧に自分の足で調査し、科学的な手法を用いて研究し、これからどう生きていきたいか、地元をどう活性化していったらいいかを提言する、その手法を身に付けて社会に巣立っているのです。これは「山形学」の基礎を高校でやっているということ、そういう意味で高校生による地域学であり、「山形学」の一つの活動だと考えています。今日お集まりの皆様も単に自分たちの地域について学ぶだけでなく、地域でこれからこうしていくとよいのではないかと強い思いを持って発言していくことが、地域学の活動の質を高めていくと思います。

このように「山形学」とは、地元に関する学習を丁寧に継続すること、調査研究することを通じて、これからの山形をより良いものにするために提言していく、「山形を創る」にあたる部分まで、ひとつの流れになって存在しているのです。

### 実践団体による事例報告

#### ○西川町歴史文化学習会 「地道な歴史学習がつむぐもの」

今年28年目を迎える学習会です。会員（受講者）から選出された6名の運営委員を中心に、学習会の企画立案運営にあたっています。町の生涯学習課職員にも事務局に入っただき、町と連携しながら進めています。学習会では、西川町の歴史的な特色を中心として座学や現地学習を行なっています。会員の65%くらいが男性、地域の中心を担うような方々にも多く参加していただいているのが一つの特色です。受講者はのべ1,200人を超えます。郷土学習を通して、地域の魅力の再発見や先人の取り組みの再認識につながっています。年2回の懇親会で会員同士が地域の課題を話したり、町の文化行政はこれでいいのか等の大きな話題もあげたりしながら、相互交流や地域間交流も進んでいます。日ごろ考えているテーマや課題を興味の向くまま取り組んできたので長く続けてこられたと思っています。

その他に地域巡りの活動を6年間ほど続けています。地域巡りをするにあたって、その地区の会員が実際に歩いて調査して案内しています。会員は地域のことを案内する自信が付きボランティア育成にもつながりますし、地域のことを掘り下げて考えていくことにもつながっています。そんな中で、3年ほ

ど前に「西川ふるさと宝マップ」を町（生涯学習課と健康福祉課のタイアップ）から作っていただきました。歴史的な昔の地図に地域の文化財をまとめたものと、体力増進に繋がるような情報も盛り込まれた現在のウォーキングマップ2枚からなります。このお宝マップを利用して各地域を巡るということも年1回行っています。

それから、西川小学校では今年度から各学年が地域に一日入って学習しています。その際にその地域の歴史的な部分を会員が講師になって説明しています。こんな時にも私たちの学習が活かされています。

また、6年前から学習会の学習成果を年度毎に冊子にまとめてきました。新たな取り組みとして、町で石碑石仏の調査をインターネットにまとめておりますが、なかなか一般住民の方に触れられる機会がないので、学習会の30周年記念事業として石碑石仏の冊子化を進めていこうとしています。これまで地域の方々にお世話になっているので、形にして返せるとよいなと考えているところです。

ですから、事業はあくまでも学習会が企画運営しますが、生涯学習課からは講師情報を提供してもらったり他部門との調整をしてもらったり、全面的に後方支援してもらおう代わりに、こちらもできることをするという、お互いにいいとこどりの良い協働関係が築けています。

学習会では、地域づくりということではなく純粹に町の歴史を学ぼうということで活動を地道に続けてきました。ただ、行政との協働関係の中で結果的に活動がまちづくりにもつながっていています。

#### ○山形市立商業高等学校産業調査部「人口増大計画 ビジネスは人がいなくてできますか」

私たちは部員19人で、高校生の視点からビジネスを提案し、山形市の地域活性化のための活動をしています。今年のテーマは「人口増大計画」。人を増やすための提案を行ってきました。この研究を始めたきっかけは、私たちが山形市の七日町商店街を歩いた時に、空き店舗が多いのはなぜか、人がいないから商品を買わない、だから店舗が減っていくんじゃないかと気づき、「人を増やす」ことで経済が活性化すると考えました。

まず晩婚化、晩産化、未婚の増加のため、年々出生率が減少し人口が減少しているという現状を知りました。それから目標とキーワードごとに仮説を立て、人を「留める・集める・増やす」をキーワードに企画を考え、実践し検証を行いました。

企画の一つ目に、山形には多くの老舗企業があり、長く続けるノウハウをこれから起業する人に伝えれば、雇用機会が増え、山形に人を「留める」ことができると考えました。老舗企業はずっと創業当時から変わらない商品やサービスを扱って経営されていると思っていましたが、時代に合わせて様々なニーズに応えながら経営していることを知りました。新しく起業する人たちがそのノウハウを使って、長く続く企業を増やしていけば、人口が留まる理由の一つになると思います。二つ目に県有特許を活用し、県外の企業を誘致することができれば、山形に人を「集める」ことができると考えました。三つ目に、若い人に結婚に興味を持ってもらえれば、婚姻率と出生率が上がり、人が「増える」と考えました。進学や就職などで県外に出ると、結婚の意識が薄れ、結婚しなくてもいいという考えになってしまい、将来的に婚姻率が下がるのではないかと考えました。高校生のうちに、結婚を身近に感じてもらうことが一番だと考え、高校生を対象にしたウェディングフェアはないので、この取り組みが広がっていけば、さらに結婚に対するワクワク感は広がって、婚姻率が上がることにつながると感じています。

この研究は今までで一番行政から注目された計画で、山形市長にも提案させていただきましたし、県

議会にも提案させていただきました。明日は山形市議会の皆様にもお聞きいただき、ご意見をいただくことになっています。この研究がテレビなどに注目されているのは、人口減少という日本が抱える問題に高校生が注目することがおもしろいのではないのかと思っています。私たちは山形がこれからも活気ある街であるためにこれからも活動を続けていきます。

### シンポジウム「人を育む地域の学び」

以下参加者の声をまとめたものです。

・産業調査部の生徒たちは、この活動を通して地元愛に目覚め、地元に残って地域を活性化したいと、市町村役場に毎年一人くらいずつ入っています。大学進学などで山形を出て行ってもいつか戻ってきて、地元を活性化したいと思っています。今の日本の学びの中で大事だと言われているのが探求型学習です。自分たちで課題を見つけ解決していく学びです。この活動を通して生徒が成長しています。教員保護者以外にも、今日のように様々な大人の方からいろいろなことを教えていただき、誉めていただき、育てていただいている。本当に素晴らしいと思っています。(産業調査部顧問)

・西川町の宝マップですが、大変立派なものです。健康福祉部門とコラボして、何キロ歩くと消費カロリーが幾ら、雪かきをすると幾らなど書いてあります。マップを活用して活動をすると、地域の文化財を知るだけでなく、健康増進に役に立ちますよというもので、町と学習会さんが連携して作っている。素晴らしいと思いました。(西村山地域史研究会)

・NPOで事業をしていますが、若い人を地域に留まらせることが大事だと言われていて、留まろうとするには、まずは地域の魅力を知ってもらうことかなと思っています。ところが、鶴岡の高校生に「地域の商店街に行ったことがありますか」とヒアリングしたところ、あると回答したのは240人中6人でした。つまり、地域の街なかを歩いたことがない高校生がほとんど。ということは、地域を知らないで高校を卒業して県外に出てしまい、知らないままになる可能性があるということです。なので、どうしたら高校生が街なかに行きたくなるか、知りたいと思いました。(NPO公益のふるさとづくり鶴岡)

・山形商業の発表は、調査に基づいて自分たちの考えをきちんと発表していて、素晴らしいと思います。県内にこういう高校生がいたんだと改めて感動したところです。ただやっぱり問題というのはすぐに解決するわけではありません。なかなか解決しないというのが実情です。ですから、今年度提言をしたからそれで終わりではなくて、この問題をさらに今後も引き続きやっていくとか、また新しい課題と並行して調べていただけると本当にみんなのものになっていくのではないかと思います。(河北郷土史研究会)

・高校生の発表を聞いてうれしかったし、心強かった。人口減少について今の中学生や高校生が、いかに自分のこととして受け止めて、このような考えに至るのが大事だと思います。そして広めることも大事だと思うんです。もっと広く県民に知ってほしいので、発表する機会を増やしてほしいと思います。(藤島文化スポーツ事業団)

・学習会さんは過去の地域の歴史などから今の自分たちの生き方にアプローチしていることに対して、山形商業は未来志向で具体的な行動を起こしている。その対比がおもしろかった。これからは若い人たちに地元の良さをわかってもらうために、地域に古くからあるものや立派なものの説明をするだけでなく、若い人たちの話にもっと耳を傾けなければならないと思いました。ほとんどの人は高校を出て、県外の華やかな世界も見てくるわけです。田舎に骨をうずめる相当な覚悟や相当なエネルギーを持っていなければ、帰ってこれないと思います。こういう活動をしている高校生や若い人たちが山形に残るという選択をすることはすごいことだと思います。是非これからも頑張ってください。(参加者)

・関東に長く住んでおりましたが、仕事や子育てでは地域の方々に愛情をいただき、支えられ育ててもらいました。それが私の原点ですが、仕事を終えて仙台に戻った時、地域とは何だろうと深く考えさせられました。自分が住んでいる社会は自分が作ったものではない、誰かが作った社会の中で生きていて、その社会や地域には不満や課題が山積している。人と人とのつながりが非常に希薄化しているけれども、課題を解決して優しい地域にしたい、何とかしてみたいと思っています。今、コーディネートする方がいないとなかなか地域の良さや地域の課題に気づける人が少なくなっている。これからは伝える人が必要だと思います。地域に関心を持っている人だけではなく、これからの人たちにどう伝えるのかも大きな課題ですが、新しい後継者がどんどん育ってほしいと思いました。(参加者)

## 最後に

西川町歴史文化学習会は、歴史に対してきちんと関心を持ち、自分たちの足元を丁寧に掘り起こして、そこから学ぶものは何かという視点で地域を見ています。そして学習成果も次世代に報告書として残しています。なぜ過去のことを学ぶのかというと、地域の課題を解決するヒントが歴史の中に埋もれているからです。先人たちは、そのときそのときの地域の課題を解決してきたはずです。その解決してきた所産が歴史なのです。すぐに観光ボランティアとか町に貢献するというだけではなく、地域の歴史を丁寧に見ていく、自分たちの地域を客観的に見ていく、科学的に見ていく視点を獲得することがまちづくりにつながっていくのです。それはまちづくりの原点でもあります。さらには歴史を学ぶことによって、自分の生き方を振り返り、自分の人生をより豊かなものにする、自分学に向かっていく意味もあります。やはり歴史を学ぶことは地域学、山形学にとって本流の領域なのです。

山形市立商業高等学校産業調査部の活動から、地元のことを愛して、地元のことを調べていく探究心を持った高校生がいることを私たちは知りました。様々な学びを通じて、地元っていいところだという意識になることが重要だと思います。こんなにも山形を愛している若者を山形の外に出すのはもったいない、雇用の場を作っていく必要があると思いました。最近では、社会に開かれた教育課程が求められています。学校の中に閉じこもらず、地元のことをもっと学んで、愛して、地元に残る子どもたちを増やすことが最終的なミッションです。ですから、その意味でこの実践は最先端を行っていると言えます。

地域とは一体何だろうかと問い続ける営みが地域学です。今回の実践報告はいずれも優れた実践でした。よい実践を聞き、また明日からも活力ある生活を送って行きたいと思います。皆さんありがとうございました。